



日本共産党  
市議会議員団  
週刊議会報告  
【発行】  
岡野長寿  
090  
2095-5792  
三浦とおる  
090  
1019-8791

9月15日(18日)まで、各委員会が開かれ、共産党市議団は4つ、すべての委員会で質疑を行い、市民の声を届けました。質疑・答弁の要旨を左記に掲載します。

### 舟券売り場開設 交通の安全を図れるか？

総務委員会で岡野長寿市議は10月下旬より11月ごろ営業が開始する予定の新高山舟券売場について質疑を行いました。

同市議は、営業開始で交通渋滞が予想される時間帯、予測交通量が当初の予測交通量の範囲内におさまるのか質しました。担当課長は、舟券売場の営業時間は9時～21時、年間約360日。一番利用が多いと思われる

時間帯は10時～11時で約60台と答えました。また、同売り場から市民病院付近を通過する車は、朝600台、夕方800台との認識を明らかにしました。

岡野市議は、交通安全確保のため、予測交通量の範囲に収まるかどうかの調査を事業者に求めるよう質しましたが、明言を避けました。

### PCR検査の拡充を求め る請願書に賛成。

三浦市議は16日に行われた、民生委員化において、コロナ禍における市民の有志の方々が提出された「コロナウイルス感染対策の拡充を求める請願書」に日本共産党市議団として賛成いたしました。

請願の代表者2人が、尾道市独自の感染症対策としてPCR検査をおこなうこと、軽症者の療養施設を確保すること、差別や偏見を生まないように感染者に対する正しい知見を広げる、市民の代表である議員が市民の声を聴いて取組む必要性について意見を陳述されました。同市議が本会議で質問した内容と重なる部分もありました。市民の意見を市政に反映していくために議会は賛成するべきですが同委員会では否決されました。

### コロナ禍における保育 の情報の共有化を

同市議は、各保育園では新型コロナウイルス感染拡大防止のため様々な努力を行っていることを紹介して、この秋の行事や日常の指導について手探りの状態で行っている現状を紹介していきました。「泣いている子どもを抱っこしていくことも感染症防止の観点からは戸惑いがある」との現場の意見を出して各園の取り組み内容の共有化を求めました。理事者は、アンケート方式でそれぞれの園の取組みを集約して、各行事や散歩等の日常の指導の情報共有していきたいと答えました。同市議は泣いている子どもを安心して抱っこできるように市独自のPCR検査を行うように求めました。

### 河井買収事件、杉原孝一郎市議 が「受領拒否」を説明(9月11日) — 現金返還の具体的説明が必要 ではないか —

未来クラブの杉原市議は、河井克行氏から現金を受領していたのではないかと疑惑に對し、自ら説明会を開き、全議員の前で、河井氏が支援の要請に來たとき置いていった後援会申込書などが入った紙袋の中に、現金が入っていたことに気づき、土日を挟んで3日後に返却した経緯を説明。自身

### 教育委員会議の公開を 教科書選定

この事件の実行者となった河井夫妻の責任が問われるのはもちろんですが、事件の基本的構図は、自民党から河井氏に渡さ

この現金受領を否定しました。ただ、この説明会は質問は受け付けており、今後、疑いの解明を求めていきます。

自民党最高幹部の責任はなぜ不問に？

この事件の実行者となった河井夫妻の責任が問われるのはもちろんですが、事件の基本的構図は、自民党から河井氏に渡さ

岡野長寿市議は、17日文教委員会、尾道市の教育委員会が教科書選定の会議を非公開で行っていることを問題視、国民の知る権利を侵害するものではないかと問い、公開するよう求めました。

この3年間で非公開とされた教育委員会議は23件、そのうち10件が教科書選定が議案となつたものであることが明らかにになりました。

同市議は、会議は公開が原則、非公開は例外であることを認めさせた後、知る権利の重要性に鑑み、非公開とできるのは、個人の人権に関わるプライバシーの権利を保護しなければならぬ場合な

ど限られる。市教委が言う公正な採択の要請はそれ自体では理由とならず、公開することで、公正性が害される現実的・明白な危険がなければ非公開とはできないはずであつて非公開措置は違憲、違法となるおそれがある、公開すべきだと迫りました。

また、同議員が「特別教育支援学級の教科書採択が公開であることとの整合性を質しましたが、明確な答弁ができませんでした。

### 大橋渋滞解決を

岡野長寿市議は18日、産業建設委員会で、尾道

同市議は、「これで尾道市は港内渡船の運行に責任を負う立場になつた」と指摘し、今後株主として、①夕方尾道大橋の上で渋滞している車を、港内渡船利用者として取り込み収益を上げるつもりはないか、②バス便が悪くないか、③高いタクシー代を出して通院している高齢者を取り込み収益を上げるつもりはないかと質し、担当課長は、今後の研究課題としたいと答えました。

今後海事都市を標榜する尾道市が、大橋渋滞解消へ本腰を入れることが期待されます。